

祝 市発足20周年 紙と港の祭典開催！

2024
10.5▶
10.6

平成16年4月1日に発足した四国中央市は、今年で20周年。市民の皆さまへの感謝の気持ちと、新たな時代への船出のためにまちを支える産業と港を冠した「二大イベント」を同時開催しました。



しらせ寄港
紙の博覧会
他の写真は
こちら



篠原市長から齋藤艦長に水引細工の「宝船しらせ」が贈られた



海上自衛隊 砕氷艦「しらせ」 一等海佐 齋藤一城 艦長

本艦が海峡の狭い瀬戸内海を航行することは非常に珍しいです。市民の皆さまには、今回の寄港を機に「しらせ」や海上自衛隊、南極観測事業について知っていただきたいです。
11月には、次の南極地域観測協力行動が始まります。昭和基地で「しらせ」を待つ隊員たちを迎えに行ってきます。



海上自衛隊 砕氷艦「しらせ」 一等海佐 齋藤一城 艦長

市発足20周年の節目の年に、本市ににぎわいをもたらした「二大イベント」は、「日本一の紙のまち」、「四国一の港湾をもつ」四国中央市の更なる発展の可能性を示し、大盛況のうちに幕を閉じました。

会場の村松6号岸壁には、「日本一の紙のまち」とそれを支える「四国一の港湾」を紹介するブースが設置され、来場者に三島川之江港の役割や魅力が発信されました。
三島川之江港の重要性を再発見させてくれた「しらせ」は7日朝、隊員の家族やファンに見送られ、三島川之江港を後にしました。

四国一の港湾に「南極観測船「しらせ」寄港」1万2千人来場！
10月4日、重要港湾三島川之江港の村松6号岸壁（村松町）に、日本が世界に誇る南極観測船「しらせ」が寄港しました。

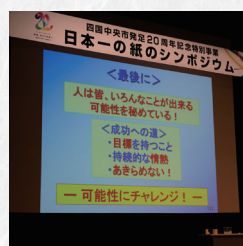
「しらせ」は、海上自衛隊が運用する砕氷艦で、氷を砕きながら航行し、昭和基地へ観測隊員や物資を輸送したり、観測・研究支援を行ったりします。今回寄港したのは、平成21年に就航した「二代目しらせ」で、三島川之江港への寄港は、平成元年の「初代しらせ」以来、35年ぶりです。

10月5日と6日の2日間、一般公開があり、艦内の見学のほか、南極から持ち帰った氷や石が展示されました。日本で唯一の砕氷艦を一目見ようと、寄港中は全国から約1万2千人の「しらせ」ファンが三島川之江港を訪れました。

紙と笑顔がギッシリ詰まった「日本一の紙の博覧会」に1万1千人来場！
10月5日と6日の2日間、「日本一の紙の博覧会」がしこちゅーホールで初開催され、約1万1千人が紙の魅力に触れました。

会場には、四国初上陸の「文具の博覧会」や地元企業の紙製品即売会、ダンボール遊園地や紙を使ったワークショップなど、紙の魅力を堪能できる企画やブースが目白押し。また、お笑い芸人「こがけん」のライブが花を添えました。キッチンカーや市の花制定記念スイーツ「みつまちゃ」などの地元グルメも並び、来場者は「日本一の紙のまち」を五感で味わいました。

そして、今回初披露されたのが、市民の皆さまから頂いた写真で制作したフォトモザイクアート「紙の女神、誕生。」と、紙で出来た白い「しこちゅー」のちゅーです。投稿した写真を探す家族連れや、しこちゅーと一緒に写真を撮る子どもたちの姿がありました。



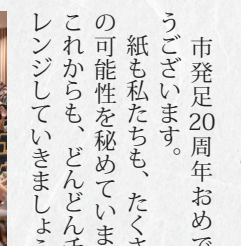
内村センター長の「特別講座」を開講。子どもから大人まで、誰もが楽しみながら、紙の持つ力と紙のまちの技術力を学んだ



篠原市長から齋藤艦長に水引細工の「宝船しらせ」が贈られた



篠原市長から齋藤艦長に水引細工の「宝船しらせ」が贈られた



篠原市長から齋藤艦長に水引細工の「宝船しらせ」が贈られた



篠原市長から齋藤艦長に水引細工の「宝船しらせ」が贈られた